

# 転換期のクリティカル・マネジメント・スタディーズ

## － パフォーマティヴィティ論争の推移 －

### 目 次

はじめに

## 第1部 アンチパフォーマティヴ CMS からパフォーマティヴ CMS への転回

### 第1章 クリティカル・マネジメント・スタディーズを主流派マネジメント 研究から分かつ分水嶺としてのアンチ・パフォーマティヴィティ

－ フルニエ&グレイ「節目の時期にある

クリティカル・マネジメント・スタディーズの状況と展望」

を読み解く －

解 題 ……002

第1節 クリティカル・マネジメント・スタディーズの出現 ……004

第2節 クリティカルと呼ばれているのは何か? ……013

第3節 CMS の政治性 ……018

第4節 CMS に懸けるフルニエ&グレイの思い ……023

### 第2章 アンチ・パフォーマティヴを拒絶する

クリティカル・パフォーマティヴィティ概念の登場

－ スパイサー、アルベッソン&カーレマン「クリティ

カル・パフォーマティヴィティ：クリティカル・マネ

ジメント・スタディーズの未完の仕事」を読み解く －

解 題 ……028

第1節 スパイサーたちの問題意識 ……029

|     |                                |        |
|-----|--------------------------------|--------|
| 第2節 | クリティカル・                        |        |
|     | マネジメント・スタディーズとはなになのか           | ・・・031 |
| 第3節 | パフォーマティビティの再考                  | ・・・039 |
| 第4節 | パフォーマティブな CMS の要素              | ・・・041 |
| 第5節 | パフォーマティブな CMS を目指して            | ・・・055 |
| 第3章 | クリティカル・パフォーマティヴィティを乗り越える       |        |
|     | プログレッシブ・パフォーマティヴィティ概念の提起       |        |
|     | ー ウィックカート&シェーファー「パフォーマティヴィティ   |        |
|     | のプログレッシブ的理解に向けて」を読み解くー         |        |
| 第1節 | ウィックカート&シェーファーの問題意識            | ・・・063 |
| 第2節 | クリティカル・マネジメント・スタディーズに見られる      |        |
|     | アンチ・パフォーマティブなスタンス              | ・・・067 |
| 第3節 | クリティカル・マネジメント・スタディーズにおける       |        |
|     | アンチ・パフォーマティヴィティの問題点 ー CMS における |        |
|     | 支配的なアンチ・パフォーマティヴィティ概念の再解釈      | ・・・070 |
| 第4節 | 異なった意味が込められた                   |        |
|     | パフォーマティヴィティのルーツ                | ・・・073 |
| 第5節 | プログレッシブ・パフォーマティヴィティに向けて        | ・・・077 |
| 第6節 | プログレッシブ・パフォーマティヴィティ研究の枠組み      | ・・・079 |
| 第7節 | プログレッシブ・パフォーマティヴィティのための        |        |
|     | フィールドメソッド                      | ・・・088 |

## 第2部 パフォーマティヴ CMS に寄せられた疑問及び批判

|     |                                |
|-----|--------------------------------|
| 第4章 | クリティカル・パフォーマティヴィティ概念 ー スポエルストラ |
|     | &スヴェンソン「クリティカル・パフォーマティヴィティ：    |

クリティカル・マネジメント・スタディーズの幸福な終焉」を  
読み解く ー

|     |                                                                                                                                                   |        |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 第1節 | スボールストラとスヴェンソンの問題意識                                                                                                                               | ・・・099 |
| 第2節 | CMS におけるレリバンスの議論                                                                                                                                  | ・・・101 |
| 第3節 | クリティカル・パフォーマンスティヴィティの考え方                                                                                                                          | ・・・104 |
| 第4節 | レリバンスを批判的に再考する                                                                                                                                    | ・・・111 |
| 第5節 | 言説的介入としての批判的レリバンシー                                                                                                                                | ・・・116 |
| 第5章 | 不安視されるクリティカル・パフォーマンスティヴィティ概念と<br>プログレシブ・パフォーマンスティヴィティ概念 ー フレミング<br>&バネルジー「パフォーマンスティヴィティが失敗するとき：<br>CMS への含意」を読み解く ー                               |        |
| 解題  |                                                                                                                                                   | ・・・121 |
| 第1節 | フレミング&バネルジーの問題意識                                                                                                                                  | ・・・122 |
| 第2節 | CMS とパフォーマンスティヴィティの問題                                                                                                                             | ・・・126 |
| 第3節 | CMS はパフォーマンスティブな変化を<br>もたらすことができるのか？                                                                                                              | ・・・139 |
| 第4節 | ひとつの総括                                                                                                                                            | ・・・147 |
| 第6章 | ダメ出しされ（軌道修正を求められる）クリティカル・パフ<br>ォーマティヴィティ概念とプログレシブ・パフォーマンスティヴィ<br>ティ概念 ー カバントゥス、ゴンド、ハーディングそして<br>リアマン「クリティカル・エッセイ：クリティカル・パフォー<br>マティヴィティ再考」を読み解く ー |        |
| 第1節 | カバントゥスたちの問題意識                                                                                                                                     | ・・・153 |
| 第2節 | リオタール、オースティンそしてバトラーの読み直し                                                                                                                          | ・・・156 |
| 第3節 | CPT における<br>パフォーマンスティビティの物質性及びその他の理論                                                                                                              | ・・・161 |

|     |                                                                                               |        |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 第4節 | 難解な理論からエンゲージド・パフォーマティヴィティへ                                                                    | ・・・163 |
| 第5節 | 組織的パフォーマティビティの政治理論<br>としての CPT に向けて                                                           | ・・・171 |
| 第3部 | パフォーマティブ CMS を巡る認識のズレ：解消かそれとも拡大か？                                                             |        |
| 第7章 | クリティカル・パフォーマティヴィティ論者からの反論<br>－ スパイサー、アルベッソン、カレーマン「クリティカル・<br>パフォーマティヴィティを拡張する」を読み解く－          |        |
| 第1節 | スパイサーたちの状況認識                                                                                  | ・・・177 |
| 第2節 | クリティカル・パフォーマティヴィティの失敗？                                                                        | ・・・181 |
| 第3節 | 現代の CMS における権威主義                                                                              | ・・・186 |
| 第4節 | クリティカル・パフォーマティヴィティを<br>よりパフォーマティヴィに                                                           | ・・・190 |
| 第5節 | スパイサーたちの立ち位置について                                                                              | ・・・208 |
| 第8章 | プログレシブ・パフォーマティヴィティ論者からの反応<br>－ シェーフアー&ウィッカート「プログレシブ・パフォー<br>マティヴィティの可能性について」を読み解く－            |        |
| 第1節 | プログレシブ・パフォーマティヴィティ批判に対する<br>シェーフアー&ウィッカートの立ち位置                                                | ・・・216 |
| 第2節 | クリティカル・マネジメント・スタディーズにおける<br>プログレシブ・パフォーマティヴィティ                                                | ・・・218 |
| 第9章 | 再びダメ出しされたクリティカル・パフォーマティヴィティ<br>－ リアマン、ハーディング、ゴンドそしてカバントゥス「クリティ<br>カル・パフォーマティヴィティを進展させる」を読み解く－ |        |
| 第1節 | スパイサーたちやウィッカート&シェーフアーの                                                                        |        |

|     |                        |
|-----|------------------------|
|     | 反論や反応への思い ……232        |
| 第2節 | スパイサーたちの立ち位置への疑問 ……234 |

## まとめ

|      |                                              |      |
|------|----------------------------------------------|------|
| 第10章 | パフォーマティヴィティ論争の要約                             |      |
| 第1節  | パフォーマティヴィティ論争が生まれた背景                         | …240 |
| 第2節  | クリティカル・パフォーマティヴィティの概要                        | …242 |
| 第3節  | クリティカル・パフォーマティヴィティ概念批判の諸相                    | …244 |
| 第11章 | パフォーマティヴィティ論争のひとつの解釈                         |      |
| 第1節  | パフォーマティヴィティ論争に対するニック・バトラーたちの評価<br>－ ひとつの総括 － | …291 |
| 第2節  | 論争後の CMS 学界 － 混迷の CMS                        | …297 |